

22630, TI, KAG as *Hydrangea macrophylla* var. *acuminata* subvar. *lucida* Hatu-sima, var. nov.); loc. cit., Amachadani, alt. 480 m (Ohba, Akiyama & Minamitani 8610003, TI); Higashi-Usuki-gun, Siiba-mura, Okawauti (Minamitani 24867, KAG); Nango-mura, Kamidogawa, Kashiba, alt. 500 m (Minamitani 26671, TI); Nishi-Usuki-gun, Hinokage-cho, Mitate-Keikoku, alt. 550 m (Minamitani 22478, TI); Saito-shi, Ginkyougawa, Kawanokuchi—Yokohira, alt. 350 m (Tadasi Minamitani 12 June 1977, no. 26304, TI—holotype; 26277 & 26278, TI); Ginkyougawa, Kawanokuchi, alt. 350 m (Minamitani 26277, TI); Sanzai, Samukawa, alt. 200 m (Minamitani 26232 & 28233, TI); Mera route, Sugiyasu—Jugoban, alt. 80 m (Minamitani 26241, TI).

I wish to express my thanks to Mr. Minamitani who sent me his specimens and gave me facilities in field survey. This study was supported by Fujiwara Natural History Foundation in 1987.

* * * *

宮崎県の植物相を調べておられる南谷忠志氏は以前から変わったアジサイが県内に分布しているのに気づかれていた。初島住彦博士はこれに *Hydrangea macrophylla* var. *acuminata* subvar. *lucida* オニサワアジサイという手記名を与えたが正式には発表されなかった。このアジサイの標本を最初に鹿児島大学で見たときに葉裏面は脈腋の毛があるほか無毛であることを知ったが、ヤマアジサイにも同様な毛が出る個体があり、特に四国には多いので、ヤマアジサイの変異に含まれるものではないかと考えた。その後、走査型電子顕微鏡でアジサイ属の微細構造を調べた折、問題の毛がヤマアジサイでは表面にいぼ状突起があるのにたいして宮崎県産のものは滑らかであることが判明した。他にヤマアジサイと異なる点は葉柄や当年枝が無毛であることである。すでに大分県からも採集されており、宮崎県に特産するわけではないが、同県に多いことからヒュウガアジサイという和名を南谷氏が提唱した。ヤマアジサイは地方変異に富んでいるが、その全貌はまだ判っていない。

□渡辺定路：福井県植物誌 416 pp. 1989. 自費出版(福井市松本 4-3-25). 著者の長年の採集品と福井県立郷土科学博物館所蔵の標本に基づく目録。ほとんどがご自分の採集品のようで、標本の引用は産地と標本番号のみでなされている。欲をいうと採集日時があれば変遷をたどる資料としてさらに良かったのと思う。(金井弘夫)